

平和と紛争

田辺寿一郎

講義の目的と構成

◎目的

1. 「暴力」、「紛争」、「平和」の意味の多様性と複雑性の理解
 2. 「暴力」、「紛争」、「平和」がグローバルレベルでも、ローカルさらにパーソナルレベルでも関係していることの理解
 3. 紛争解決や平和の構築、そして多文化共生から共創の実現に向けて必要なことは？
- ➡考え方・意見・価値観・規範の違いをどう考えたらいいか？

講義の目的と構成

◎構成

1. 暴力の考察

➡ **直接的暴力・構造的暴力・文化的暴力**の考察

2. 紛争の考察

➡ **暴力を伴わない紛争**の考察

3. 平和の考察

➡ **消極的平和と積極的平和**の考察

4. 異なる平和・正義の対立の考察

➡ **行き詰まりの時代の考察**

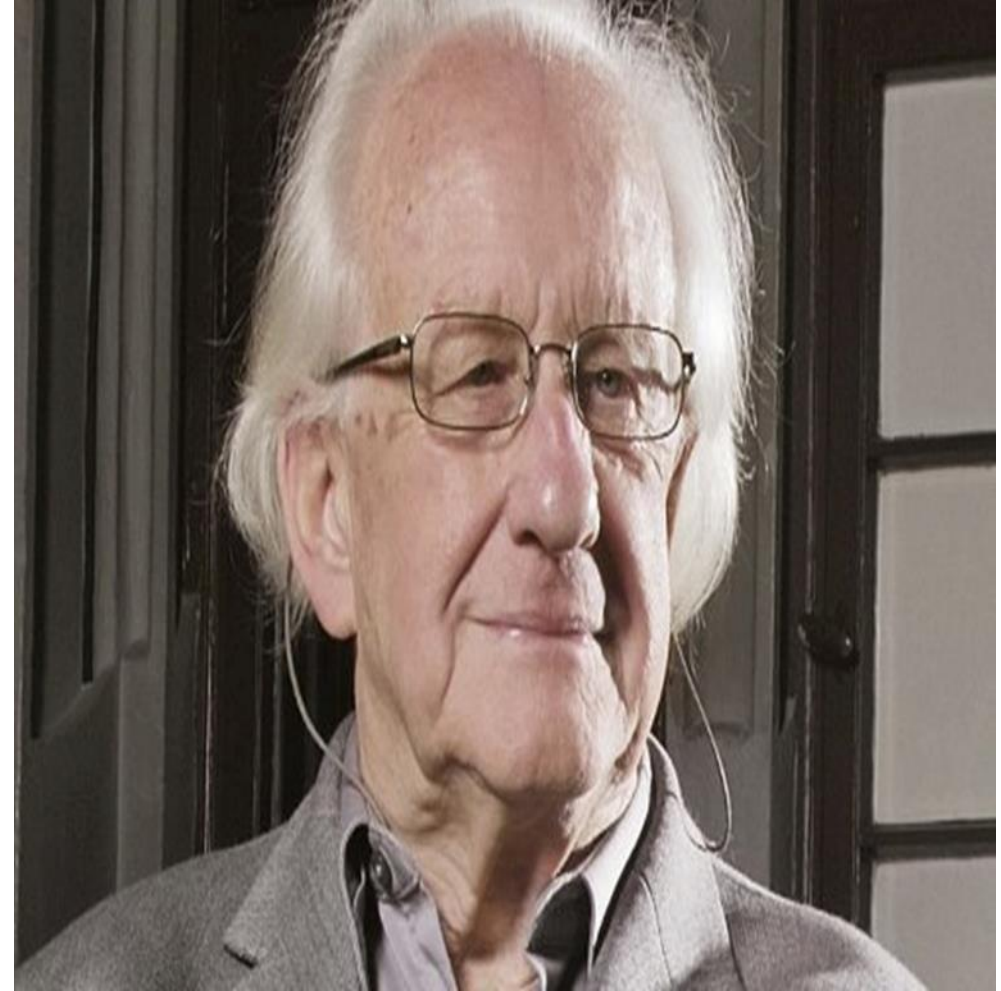
暴力

◎ヨハン・ガルトゥングによる暴力の分類化：3つの暴力

- 1) 直接的暴力(Direct Violence)
- 2) 構造的暴力(Structural Violence)
- 3) 文化的暴力(Cultural Violence)

◎暴力：物理的に傷つける行為のみが暴力ではないということ

◎暴力：複雑で多面的な現象



ヨハン・ガルトゥング

暴力

◎直接的暴力

➡特定の人間による他者への物理的（肉体的）傷害行為や苦痛を与える行為：戦争や個人間での殺害や傷害行為など

➡特定の人間が直接的に傷つけられる現象

◎世界の女性の**3人に1人**が直接的暴力被害を受けているという報告あり（WHO: World Health Organization: 世界保健機関より）

暴力

◎国家レベル

➡政治的な理由での戦争参加：侵略行為：自衛行為：政治目的での国家テロ行為：反社会的犯罪・行為への武力行使（警察や軍隊の動員）

◎第二次世界大戦中のホロコースト、１９９４年のルワンダ内戦における大量虐殺、ボスニア紛争（１９９２年～１９９５年）における民族浄化運動や虐殺行為、シリア戦争（２０１１年～）、ウクライナ戦争、ガザ危機など多数

暴力

◎構造的暴力

◎ヨハン・ガルトゥング：社会の構造における可能性と現実のギャップ

◎社会の構造や機関に組み込まれた暴力：力の不均衡性、市民の間での政治・経済・社会活動の不均衡な機会の存在

◎構造的暴力＝社会的不正義(Social injustice)

暴力

◎政治決定権の不平等・社会一経済活動参加機会の不平等・教育機会、医療アクセスの不平等などによって、基本的権利や欲求達成が阻害され、自己実現達成に向けた生活が享受できない状態

(1) アパルトヘイト (南アフリカ)

(2) 南北問題

(3) グローバル化とそのインパクト：グローバル経済によって貧富の差が拡大：飢餓や栄養失調が深刻する地域もあればフードロスが深刻な地域も存在

暴力

◎世界の億万長者（純資産 1 0 億ドル以上）： 3, 0 2 8 人

➡総資産： 2 兆ドル

◎世界の極度の貧困人口： 約 6 億 8 5 0 0 万人

➡ 1 日あたり 3 ドル（USドル）以下の生活を強いられている人々

◎世界の飢餓： 約 7 億 2 0 0 0 万人

◎新自由主義的経済のグローバル化： **現状の不均衡な力関係と維持の
道具**

暴力

◎構造的暴力

- ➡主体と客体の明確な関係性の不在：直接的暴力との大きな違い
- ➡我々が当たり前に思っている社会の構造自体が、人権侵害、人間の尊厳の損傷、自己実現の達成の阻害要因となっている状態
- ➡社会の構造：人の生命を損なわせたり、人間の尊厳を損なう原因
- ➡社会の構造や制度は、「そういうものだ」と思いこんでしまっていることも問題の1つと言えるのではないのでしょうか？

暴力

◎文化的暴力

◎人間が文化的要素によって傷つけられたり、差別されたり、取り残される状態

◎文化：一定の共同体の中で共有される価値観、規範、世界観、歴史観、常識など

➡共同体の中で円滑な社会生活に必要な価値観・知識・常識・マナー

暴力

◎文化的暴力

◎価値観・規範・世界観の形成：概念や言葉による世界のカテゴリー化

➡男性/女性、人間/神（超越的存在）、日本人/中国人（それ以外のあらゆる国籍）、白/黒、などなど

➡「内」と「外」の形成：「内集団」と「外集団」の形成

➡「外集団」への差別の発生

暴力

◎一定の社会的・文化的価値観、規範、常識を共有する集団と共有しない・逸脱する集団（個人）の形成

◎社会的・文化的価値観、規範、常識から逸脱した人間への直接的暴力、差別、構造的暴力が発生

➡選民思想：神から選ばれた民/選ばれざる他者

➡植民地主義：文明化された白人/未開・原始的な他者

➡宗教教義：共通の教義を信じる信仰者/他の宗教教義を信じる信仰者

➡ジェンダー問題：「男性はこうあるべき」・「女性はこうあるべき」

➡文化・宗教そして生活様式が違う人への偏見

暴力

◎文化的暴力のポイント

◎文化的価値観や規範、生活様式の否定ではない

◎人間にとって思想，価値観・規範の構築は重要であるが、同時に自らを一定の枠組みに固定化してしまい，一定の枠に当てはまらない個人や集団を逸脱者あるいは反社会的存在として差別，時に直接的に危害を加える可能性を秘めていることへの気付きが重要

紛争

◎紛争(Conflict)

◎紛争の分類化：非暴力的な紛争と暴力的な紛争（武力紛争）

◎非暴力的紛争

◎お互いに相容れない（あるいは異なる）目標や考えを持ち衝突している状態

➡人間同士で相容れない目標や考え方、価値観によって、互いに敵対的な感情が生まれる状態

◎価値観や意見，議論や観点などの相違の結果，衝突が発生し，相手に対してネガティブな感情や偏見が生まれ，関係が悪化する状態

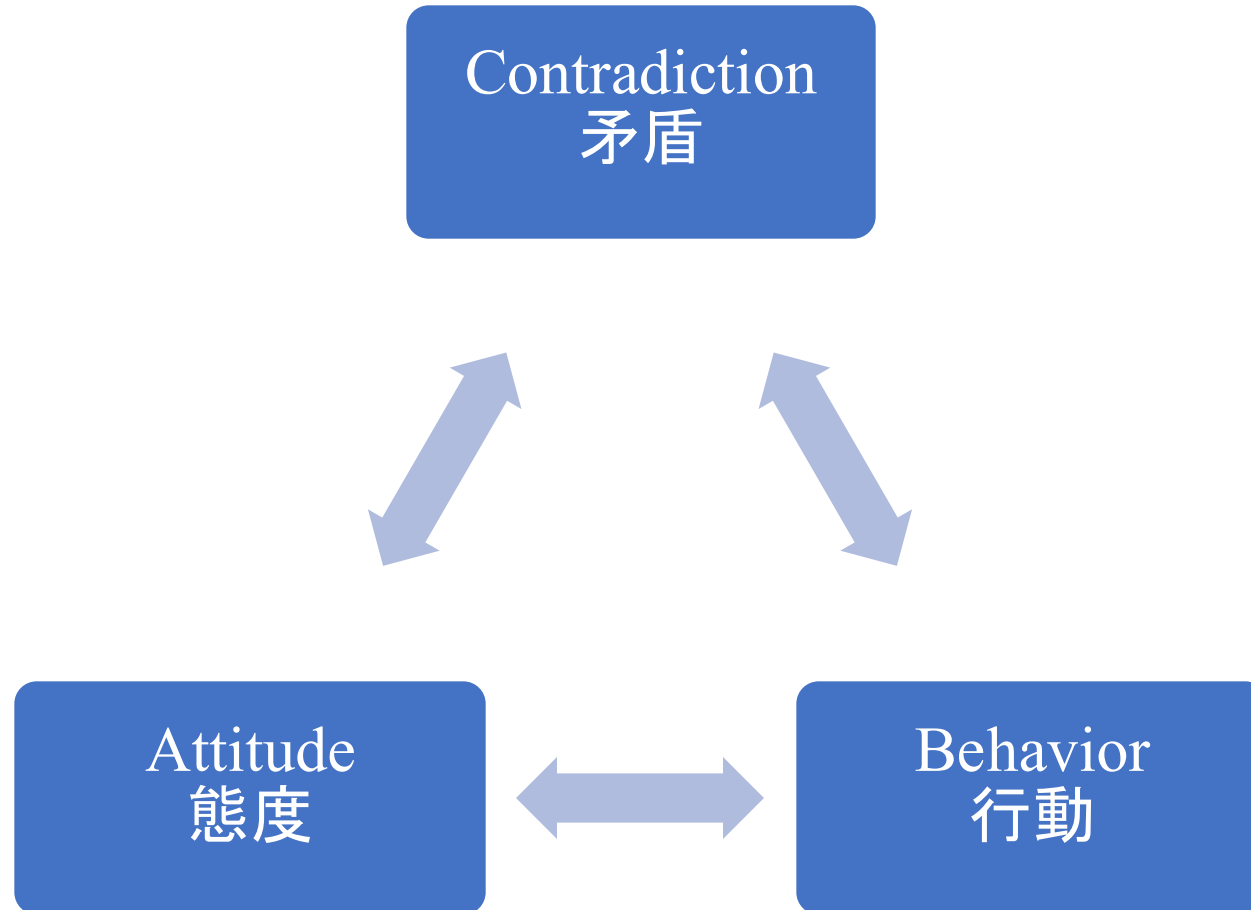
紛争

◎価値観や意見・目的あるいは政策の相違と衝突そしてネガティブな感情の発生と
関係悪化：**様々な人間関係に見られる現象**

- (1) 政治思想の違いからくる対立
- (2) 企業での雇用者と被雇用者の労働環境や賃金を巡る対立
- (3) 異なる民族間の価値観の違い
- (4) 異なる宗教間の信仰を巡る違い
- (5) 国家間の貿易摩擦（米中貿易摩擦）
- (6) 国際機関における参加国間の政策の違い

◎皆さんもご経験あるのではないのでしょうか？

紛争モデル：ABCトライアングル



紛争モデル：ABCトライアングル

◎Contradiction (矛盾)： 基本的な紛争状況

➡**紛争当事者間の目標・利益の対立（実際の対立と当事者が対立している
と認識している状態の両方を指す）・価値観や意見の対立**

◎Attitude (態度)： **紛争当事者の相手と自分に対する認識と誤解**

◎Behavior (行動)： **威嚇、強制、破壊的攻撃**

紛争モデル：ABCトライアングル

◎ABC トライアングル

◎**二重の可能性：否定的/破壊的、積極的/建設的の両面性をもつ**

◎**1つの局面の変化**

➡**他の2つの局面の変化に連結**

◎紛争解決・平和構築：ABCトライアングルの**建設的方向への転換**を目指すもの

➡敵対的・暴力的行動パターンの変容・否定的態度の変容・敵対的関係性の変容・衝突している価値観・考え方・利益・目標の変容

武力紛争

◎紛争当事者双方が武力を用いて相手を倒そうとする紛争

(1) 中東問題 (パレスチナ v s イスラエル)

(2) アフガン紛争 (2001～)

(3) シリア内戦 (2011～2024)

(4) イエメン内戦 (2015～)

(5) ウクライナ戦争などなど多数

◎国家間紛争に加え、民族紛争・宗教紛争、国家 (中央政府) v s テロ組織など

現代武力戦争・紛争の最新の動向と特徴

◎戦争・紛争の定義は多様にあることに注意

➡研究機関・学者・研究者でも統一の定義はない

➡本講義では、ノルウェーの平和研究機関の定義を使用します

◎戦争：年間の戦闘関連死者が1,000名を超えるもの

◎武力紛争：年間の戦闘関連死者が25名から1,000名のもの

現代武力戦争・紛争

◎2023年: **34**ヶ国で**59**の紛争・戦争

→ **アフリカ大陸**: Benin, Burkina Faso, Burundi, Cameroon, Central African Republic, Chad, Democratic Republic of Congo, Ethiopia, Kenya, Mali, Mozambique, Niger, Nigeria, Rwanda, Somalia, Sudan, Togo

→ **アジア地域**: Afghanistan, India, Indonesia, Myanmar, Pakistan, Philippines, Thailand

→ **ヨーロッパ**: Azerbaijan • Ukraine • Russia

→ **中東**: Iran, Iraq, Israel/Palestine, Syria, Turkey, Yemen

現代戦争・武力紛争

◎強制移住

◎世界の強制移住者数：1億2320万人（2024年末データ）

◎難民数：4270万人

◎国内避難民数：7350万人

◎庇護申請者数：840万人

◎世界の強制移住者のうち、4900万人は18歳以下の子供

◎難民として生まれた子供の数：230万人（2018年～2024年）

平和の基本的特徴

◎平和：1つの絶対的定義はない

➡様々な定義・考え方がある

➡個人、社会、文化、国などによって平和の考え方や目指す平和は多種多様：もちろん、共通に目指す平和も存在するとは思いますが

平和の基本的特徴

◎平和の3つの局面

①**目標・ビジョンとしての平和**：どのような平和を達成したいのか？

②掲げた平和・ビジョン達成に向けて活用される**手法/プロセスとしての平和**

➡交渉、調停、対話、和解、教育、軍事介入、開発、芸術などなど

③**感情**としての平和

➡平和である時どういう気持ちか？自分が思い描いた（平和の）ビジョンを達成した時の気持ちはどうか？などなど

消極的平和と積極的平和

◎ヨハン・ガルトゥング (Johan Galtung) が提唱

◎消極的平和

➡狭義の平和

➡**個人間、コミュニティ間、国家間などで、直接的暴力や武力紛争がない状態**

➡停戦合意、武力による威嚇あるいは使用による秩序維持、独裁者による力の恐怖統治などなど

➡短期的平和・**不安定な平和**

消極的平和と積極的平和

◎消極的平和

◎冷戦期：アメリカとソビエト（ロシア）の対立

◎力の均衡状態：アメリカと中国・ロシア

◎アメリカとイラン関係

◎朝鮮半島情勢：政治的対立状態の常態化：北朝鮮、韓国、日本、アメリカ、ロシアなど

➡関係改善、構造変化なしの現状維持

消極的平和と積極的平和

◎積極的平和

➡ 広義の平和

➡ 構造的暴力がない（克服された）状態

➡ 不安や貧困のない生活を送れる社会の構築

➡ 民主的な政治体制が存在する状態

➡ 1人1人の人権が尊重される社会の構築

➡ 1人1人が自己実現に向けて努力できる環境の整備

消極的平和と積極的平和

◎積極的平和

➡人間に対する楽観的見方

➡人間：解決に向けて様々なアプローチを創出する能力を持つ生き物

➡対話、交渉、妥協、体制改革、資源の平等な分配による社会的正義の構築、平和教育など

➡人間：様々な知識を修得し、様々な問題解決に向けて、学んだ知識を創造的に変容させ活用する能力を生来的に持つ存在

➡人間の無限の可能性への信頼が土台

消極的平和と積極的平和

◎積極的平和の土台的要素

①公平性

➡様々な形の差別の除去：人間1人1人の自己実現/人間としての尊厳ある人生のための必須条件

②機会の平等性の達成

➡1人1人の様々な能力・スキル発展に向けたエンパワメント：社会活動、経済活動、政治活動、文化活動など、様々な活動を通じた自己実現の土台作り

消極的平和と積極的平和

③生活の質の向上

➡自己成長、自由の享受、自律、他者との連帯、積極的な政治・経済・社会活動への参加

積極的平和：社会変容、様々な面での人間のエンパワメント、調和的・持続的関係性の構築、多様性と連帯、などなど

行き詰まりの時代

◎「平和」・「正義」などの言葉：大切な言葉であり、達成すべきこと

➡しかし：**異なる平和思想・正義が対立を生む**

◎グローバルな戦争・紛争や社会の中の様々な対立の背景にあるもの：**「正義や価値観の絶対化」**

➡それぞれが自分の平和や正義、価値観、考え方を唯一の正解と考える構造

➡多様な平和思想、正義、正しい政治や社会づくりの軽視と他者の否定

➡「対話（Dialogue）」や傾聴（Active Listening）」ではなく、強い言葉による説得や排除に向かう傾向

行き詰まりの時代

◎二元論的思考の限界？

- ➡物事や概念の単純な二元論的思考の限界
- ➡「正義」と「不正義」、「善」と「悪」、「敵」と「味方」、「私たち」と「彼ら」、「保守」と「リベラル」、「日本人」と「外国人」などなど
- ➡「どちらが正しいか」という思考の危険性

行き詰まりの時代

◎二元論的思考の否定ではない

➡その中に潜む危険性への気づきが重要

◎複雑な現実を単純化しすぎる

◎思考の硬直化に繋がる可能性がある

◎対話や共感を妨げる可能性がある

◎排除や差別、そして最悪、暴力の温床となる可能性がある

行き詰まりの時代

◎ウクライナ戦争

- ➡ロシアの「自衛」論とウクライナの「独立」論の衝突
- ➡NATOや西側諸国の「自由と民主主義」の枠組み拡大志向と
ロシアの安全保障
- ➡各国家やアクターの考えの対立が問題の根底に存在

行き詰まりの時代

◎イスラエル・パレスチナ：宗教・民族・歴史の重層的対立

➡イスラエルの「自衛権」 vs パレスチナの「抵抗権」と「国家建設」

➡宗教的聖地の重複と妥協の困難性

➡国際社会の介入もそれぞれの枠組みに縛られ、根本的な解決は困難

➡イスラエル・パレスチナ：双方で求めている平和の違いと関係各国の考え方の相違

➡2025年10月9日：ハマスとイスラエル政府の間で和平合意第一段階に合意

➡しかし、今後のガザやヨルダン川西岸地区の問題、パレスチナ国家建設の問題など、考え方に相違が顕著な問題は未解決

行き詰まりの時代

◎日本の排外主義と多文化共生の課題

- ➡「日本人ファースト」：この構造の中には、「日本人に含まれる人々」の排除が存在
- ➡「リベラル」と「保守」という単純な構造で取り組むことはできない課題
- ➡「今、日本に必要なこと」や「理想の日本像」という根本的な部分で相違が存在し、互いに譲らない状態も問題ではないか？
- ➡多文化共生：二元論的思考を超えて、多様な価値観・考え方の中で模索するプロセス
- ➡ある意味、固定化された答えのないものに取り組むプロセス

行き詰まりを超えて

◎ 1つの解決方法の模索から「共存」や「共鳴」、そして模索を目指す思考の転換の重要性

◎ 価値観や正義・平和の多様性：創造的思考の源泉であるという認識と実践の重要性

➡ 多様性の中で、四苦八苦しながら終わりのない協働のプロセスに取り組むことの重要性

➡ 対話・傾聴・自己批判（自己否定ではない）、自己変容の実践の重要性

◎ 学校生活・社会活動と同時に倫理的・哲学的思考の実践

質問

- ①皆さんにとって、「平和」や「正義」とは、どんな意味を持っていますか？それはどんな経験から生まれた考えですか？
- ②これまで、誰かと価値観や考え方の違いを感じた場面はありますか？そのとき、その違いに対して、どう対応しましたか？
- ③「善と悪」「敵と味方」などの二元論的な枠組みで物事を見てしまった経験はありますか？その結果、何が起きましたか？
- ④多文化共生を進めるうえで、どんな価値観の違いが障壁になると感じますか？あるいは、そのような経験を実際にされたことがありますか？

質問

- ⑤自分の価値観や考え方を問い直す経験はありますか？それは何がきっかけでしたか？
- ⑥対話・傾聴・自己批判を実践するために、どんな姿勢や環境が必要だと思いますか？日常生活や社会活動でそのような実践を浸透させるためにはどうしたらいいと思いますか？
- ⑦答えのない問いに向き合うことは、どんな意味や価値があると思いますか？
- ⑧学校や社会活動の中で、倫理的・哲学的な思考をどう育てていけるでしょうか？